

5年ぶりに清水港に潜水艦が入港 特別公開を実施



潜望鏡体験



動く潜舵を見る参加者

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は10月23日（水）から25日（金）、清水港袖師第1埠頭（静岡市）で海上自衛隊潜水艦「やえしお」の特別公開を行った。

同港に潜水艦が入港するのは5年ぶり。水上艦艇と比べて潜水艦の内部を見られる機会はほとんどなく、今回の特別公開には自衛隊に興味のある若者や受験希望者、保護者など100人が参加した。特別公開は10人ほどのグループに分かれて行い、まず岸壁から潜水艦の外観や潜望鏡・潜舵が動く様子を見学した。乗員から「見えてるのは船体の一部で、全体は旅客機と同じくらいの大きさがあります」といった説明を受けると、参加者は特徴的な潜水艦の姿に興味深く見入っていた。

その後、船体上部のハッチからはしごを下りて艦内に入り、食堂や士官室で同艦の概要説明を聞き、エンジンのある機械室、魚雷の発射管室、シャワーやトイレ、3段ベッドなどが備えられた居住区、艦長が指示を出す発令所を見学した。

発令所では、岸壁から見学した潜望鏡や舵の操作を実際に体験することができ、参加者はボタンやハンドルで潜望鏡を動かしたり、操舵席に座り「車と違って外を見るモニターはないんですね」と驚きの声を上げていた。

艦内の食堂で「やえしお」特製カレーライスを体験喫食したグループは、おいしい食事に笑顔を見せつつ、潜水艦での生活や海上自衛隊の職種などについて隊員に熱心に話を聞いていた。

静岡地本は、今後も部隊と協力して艦艇見学などの機会を設け、自衛隊の仕事に興味を持ってもらえるよう広報活動を行っていく。

日本最長のつり橋で自衛隊が広報活動



広報ブース



紙飛行機作製体験

自衛隊静岡地方協力本部三島募集案内所（所長・林正士1等陸尉）は、10月26日（土）と27日（日）、三島スカイウォーク（三島市）で広報イベント「自衛隊がやってくる！」を開催した。

このイベントは同施設の依頼を受け昨年から開催しているもので、静岡地本が制服試着体験、自衛官相談コーナー、紙飛行機作製体験を行ったほか、陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）が高機動車、軽装甲機動車、偵察用オートバイを展示した。

会場は県内外から訪れた観光客で賑わい、「日本最長のつり橋」の一部を背景に自衛隊車両と記念撮影をしたり、隊員と話をしたりして、自衛隊の活動への理解を深めていた。

また、子どもたちは三島所の広報官と一緒に自衛隊の航空機デザイン紙飛行機を作り、楽しみながら自衛隊と触れ合った。

三島所は、引き続き地域に根付いた広報活動を行い、自衛隊の魅力を発信していく。